

第75回「社会を明るくする運動」作文コンテスト 伊平屋中 照屋優心さん 優秀賞

第6号



教育委員会

たより

文責

伊平屋村教育委員会
屋比久健太郎

第75回「社会を明るくする運動」沖縄県作文コンテスト・中学生の部において、伊平屋中学校2年の照屋優心さんが優秀賞を受賞しました。今回は、その入賞作文の全文を掲載します。

「小さな行動がつくる未来」

照屋 優心

私たち伊平屋中生は、日頃からお世話になっている地域のために、さまざまな活動に取り組んでいます。特に、あいさつ運動や遠征先のホテル周辺のゴミ拾いなどが、私の印象に残っている活動です。また、あいさつ運動や清掃活動と比べると頻度は少ないですが、地域の行事のボランティアや、ユニクロの難民支援『届けよう、服のチカラプロジェクト』にも取り組んでいます。

こうした活動の中でも、地域とのつながりや社会の明るさを感じたときがあります。まずは、毎朝取り組んでいるあいさつ運動です。あいさつ運動とは、校門の前に立って、登校してくる生徒や通り過ぎる車の運転手さんに向かってあいさつをすることです。入学したばかりで初めてあいさつ運動に参加したとき恥ずかしさもありましたが、返してもらえたときやクラクションで応えてくれたときの嬉しさ、そして夏は暑く冬は寒い中でも一生懸命な先輩方の姿を見て、この活動の大切さがわかりました。あいさつのあとには、地域の道路をきれいにする清掃活動の時間があります。こうした日々の積み重ねが、地域に貢献することにつながっていると思います。

他にも、伊平屋中生は地域のスポーツ行事にも積極的に関わっています。たとえば、村内のバレーボール大会では、中学生が線審や得点係、審判を務めます。終わったあとの大人の方々からの「ありがとう」や「助かった」などの声は、やりがいを感じさせてくれます。また、伊平屋村では毎年、「伊平屋ムーンライトマラソン」が開催されます。このマラソンは、夕方から夜にかけて満月の光の下を走る特別な大会で、毎年たくさんの方が島外から参加します。伊平屋中生もボランティアスタッフとして、ゴールテープを持ったり、完走者にメダルをかけたりのことを手伝いました。知らない大人の人たちに声をかけることに最初は緊張しましたが、中には感動して涙を流している人もいて、そんな方に「おつかれさまでした！」と声をかけると、心のこもった「ありがとう」や「中学生に応援してもらえて嬉しかった」といってもらえて、その言葉が私の励みになりました。

さらに、私たちが自ら島外の方と関わる活動もあります。部活動の大会などがあると、会場近くのホテルに宿泊します。そのとき、朝にみんなで宿泊先周辺のゴミ拾いをするルーティーンがあります。ゴミ拾いをしていると、その地域の人たちが、「どこから来たの？」と声をかけてくれたり、「朝からゴミ拾いして偉いねえ」と言ってくれたりします。私たちが泊まった場所をきれいにして帰るのは当たり前なことだけど、その一言がすごく嬉しいです。それと同時に、私たちも地域の一員としてマナーや思いやりを実感するし、「島の代表としてきてるんだ」という意識も強くなります。また、伊平屋中では最近ユニクロさんと協力して『届けよう、服の力』プロジェクトにも取り組み始めました。各ご家庭のいらなくなった服を集めて、世界の難民や服を必要としている人たちに届ける活動です。遠く離れた場所の人たちに、私たちがここ伊平屋島からできることがあることを知ったのは、私にとって新しい発見だったし、「世界とのつながり」も感じられました。

こうしたいろいろな活動を通して、私は社会を明るくするというのは、特別な誰かがやることではなく、私たち一人ひとりの行動でつくられていくのだと思いました。あいさつをすること、人のために動くこと、ごみを拾うこと。どれも特別なことではないけれど、その1つの小さな行動が少しでも誰かの心をあたたくしたり、笑顔にできたら、それがきっと明るい社会につながっていくのだと思います。また、日本では、犯罪や非行をなくし、みんなで支え合う社会を目指す「社会を明るくする運動」という活動があるそうです。伊平屋中学校の活動も、そうした社会への一歩になっていると思います。

これからも私は、自分にできることを大切にしていきたいです。そして、私たちの取り組みが、伊平屋村だけでなく、日本や世界にも明るい影響を与えられたらいいなと思います。



Notebooklm : 音声解説